

令和6年度 富山県 英語教育改善プラン

目標

外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとする児童を育てる。

○小中連携の割合100% (R5 : 93.4% ⇒ R6 : 100%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①教師の指導力・英語力の向上
【授業における、児童の英語による言語活動時間の割合】
(R4)92.4⇒(R5)93.8%
昨年度より改善され、高い割合を維持している。
- ②小・中・高等学校の連携
【小中連携】目標100%
(R4)52.6%⇒(R5)93.4%

未だ改善が必要な点

- ①「CAN-DORリスト」形式による学習到達目標の設定状況
設定
(R4)78.5%⇒(R5)88.1%
公表
(R4)33.9%⇒(R5)42.9%
達成状況の把握
(R4)63.3%⇒(R5)71.2%

昨年度より改善されているが、公表している学校の割合が低い。

2. 要因分析

- ①②教員研修の充実と連携
平成27年度から「小学校外国語指導力等向上研修会」を各小学校より1名参加の悉皆研修として実施し、教員の英語力、英語指導力を高めることを目的に、大学教授等による講演会やワークショップを行っている。
- 研修会では、小中高の教員が一堂に会し、ワークショップ等を通して情報交換する場を設定しており、研修会後の連携にもつながっていると考えられる。

- ①CAN-DORリストの設定及び達成状況の把握については向上傾向にあるので、今後は公表の意義についても周知を徹底していく必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①令和のとやま型教育推進事業

令和の時代に求められる教育理念の具現化と学習指導要領の確実な実施に資するよう、児童の「資質・能力」の育成のための市町村教育委員会における実践研究を推進し、その成果の普及を図る。

①②とやまグローバル人材育成促進事業

研究拠点校を指定し、講師招聘等での研究支援や研究成果の普及を図り、教員の英語指導力の向上を図る。

また、昨年度同様、小学校教員対象の「小学校外国語指導力等向上研修会」、中・高等学校教員対象の「英語教員研修会」を同日開催し、研修会の日程と内容を調整して、学びの連続性を確認する研修内容とともに、地域ごとの小中高等学校教員の情報交換や交流の場を設け、それぞれの校区での連携につなぐ。

①とやまグローバル人材育成促進事業

「小学校外国語指導力等向上研修会」等において、CAN-DORリストの活用について学ぶ機会を設ける。

・教員採用選考検査小学校受検者においては、英語免許保有者及び一定の英語力を有する者への加点制度を設ける。

令和6年度 富山県 英語教育改善プラン

目標

外国語による言語活動を通して、簡単な情報や考え等を理解し表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図ろうとする生徒を育てる。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 48.9% ⇒ R6 : 50%)

○小中連携の割合100%、中高連携の割合82% (【小中連携】R5 : 93.4% ⇒ R6 : 100% 【中高連携】R5 : 81.8% ⇒ R6 : 82%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合の向上
(R4)46.1 %⇒(R5)48.9%
目標 (50%)には達していないが、増加傾向にある。

②小中高連携の推進
【小中連携】目標100%
(R4)52.6%⇒(R5)93.4%

未だ改善が必要な点

①コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動の充実
(R5全国学力・学習状況調査の結果から、思考・判断・表現に関する問題への解答に課題がみられた。)

②教師の指導力・英語力のより一層の向上
【授業における、英語担当教師の英語使用状況】目標90%
(R4)64.9 %⇒(R5)57.9%

2. 要因分析

①授業改善の推進
研修会や研究授業等で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を授業の中心に位置付けた授業が増加している。

②研修会における小中高の連携
小学校教員対象の研修会と中学校・高等学校の教員対象の研修会を同日開催し、ワークショップ等を通して情報交換する場を設定しており、研修会後の連携にもつながっていると考えられる。

①研修会等で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を行うことの重要性を伝えており、教員の意識は向上しつつあるが、言語活動が授業の中に根付くためには、継続的な意識付けが必要である。

②研修会等の機会を捉え、学習指導要領に記載されている「授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」という意識付けを行ったが、不十分であった。

3. 目標を達成するための施策・事業

①令和のとやま型教育推進事業
令和の時代に求められる教育理念の具現化と学習指導要領の確実な実施に資するよう、生徒の「資質・能力」の育成のための市町村教育委員会における実践研究を推進し、その成果の普及を図る。

②とやまグローバル人材育成促進事業
昨年度同様、小学校教員対象の「小学校外国語指導力等向上研修会」、中・高等学校教員対象の「英語教員研修会」を同日開催し、研修会の日程と内容を調整して、学びの連続性を確認する研修内容とするとともに、地域ごとの小中高등학교教員の情報交換や交流の場を設け、それぞれの校区での連携につなぐ。

①②教員研修の充実
研究拠点校における授業公開等を通して、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動の充実」を図るための手立てについて研修を深める機会を設ける。
また、「授業は英語で行うことを基本とする」ことの趣旨の周知を図り、言語活動の充実と生徒自らが英語力を高めようとする主体性の育成を実現できる授業づくりを目指す。
さらに、研修会等で、教員が英語を使用する機会を増やすなど実施方法を工夫し、意識の向上を図るとともに、機会を捉え、外部検定試験の特別受験制度について紹介するなど、自己研鑽を推奨する。

令和6年度 富山県 英語教育改善プラン

目標

「指導と評価の一体化」を進めるための教師の指導力の向上と評価の改善

- 「CAN-DORIST」形式による学習到達目標の整備状況達成状況の把握 (R5 : 59.2% ⇒ R6 : 75%)
- CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 61.4% ⇒ R6 : 62%)
- CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 20.1% ⇒ R6 : 25%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①小中高の連携
(R4)87.9%⇒(R5)81.8%
※英語教育実施状況調査
- ②生徒の言語活動時間
【生徒の英語による言語活動時間の割合】
(R4)62.8%⇒(R5)60.3%
※英語教育実施状況調査
①②ともに昨年度より下がったが、高い割合を維持している。

- ①CAN-DORISTの活用
【「CAN-DORIST」形式による学習到達目標の整備状況達成状況の把握】
(R5)目標75%
(R4)63.3%⇒(R5)59.2%
※英語教育実施状況調査
- ②観点別学習状況の評価を含む評価の改善

2. 要因分析

- ①小中高合同研修の実施
 - ・同一のワークショップ・講義
 - ・近隣地域の他校種の教員との情報交換
- ②研究拠点校における研究実践と成果の普及
 - ・研修会における報告
 - ・報告書の全教員への配布
- ①・CAN-DORISTと考査や模試、検定による評価等が教員の中であまりリンクしていない。
 - ・自らの経験等の主観的な指標による指導がなされている。
- ②・英語科全体で評価方法の検討、振り返りがなされていない場合がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②以下の取組の継続
英語・グローバル教育充実事業
高度な英語力をもち、世界で活躍するグローバル人材を育成するため、各校で設定した学習到達目標の活用を促進し、全県で英語指導の一層の充実を図る。
 - ・小中高合同研修の実施
 - ・研究拠点校における研究実践と成果の普及
 - ・ICT機器のさらなる活用の促進
- ①②以下の取組の継続
英語教員研修会
 - ・評価に関するワークショップの実施学校訪問
 - ・現場の状況把握と助言

[留意点]

 - ・CAN-DORISTを活用した評価計画の重要性の共有
 - ・各学校の実情に合わせた評価方法を助言
 - ・多様な評価方法の具体的方策の提案
 - ・教員個人レベルの理解の促進

富山県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	60	61.4	62		63		64		65	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	25	20.1	25		25		25		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	70	60.3	70		70		70		70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	60	50	60		60		60		60	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100	100		100		100	
		公表（％）	70	59.2	60	65		65		70	
		達成状況の把握（％）	75	59.2	75	75		75		75	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	85	86.9	85		90		90		90	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	65	45.3	60		65		65		70	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	50	48.9	50		55		55		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	90	71.9	90		90		90		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	100	91.2	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100	100		100		100	
		公表（％）	100	47.4	100	100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	81.6	100	100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	55	54.6	55		60		60		65	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	90	57.9	90		90		90		90	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	88.1	100	100		100		100	
		公表（％）	80	42.9	80	80		80		80	
		達成状況の把握（％）	70	71.2	80	80		85		85	